

性空上人坐像

開山堂の内部には、圓教寺の開祖性空上人（910～1007）の瞑想姿の木製の彫像が納められている。大きく張った頭頂部は、ゆったりとした僧侶の袈裟で覆われた細い体で相殺されている。像の手は現在なくなっているが、腕の配置から、掌を合わせた姿か、あるいはお布施の鉢を握っていたと推察される。この解釈は、開祖の堂々たる姿というよりも、祈りをささげる普通の僧侶のようなその像の謙虚な表情によって裏付けられている。起源は不明だが、その様式と構成は 11 世紀初頭の作品であることを示している。元々は、圓教寺の 6 つの塔頭の 1 つである仙岳院に安置されていた。